

令和元年度第 1 回ひきこもり支援施策検討会議事要旨

日 時：令和元年 8 月 23 日（金） 15：30～17：30

場 所：三宮研修センター 5 階 505 号室

出席委員：飯島委員、永井委員（岸田委員の代理）、北岡委員、佐伯委員、羽下委員、
藤本委員、船越委員、松原委員（座長）

欠席委員：近藤委員、高宮委員

【委員からの主な意見】

- ・ こどもの健康・安全を確認するためには、デリケートな（時間をかける）対応と権限に基づいた（緊急的な）対応があり、双方連携をとっての対応が必要。
- ・ 対象者の年代が 20 代 30 代か、50 代 60 代かで支援の内容が異なる。年代が横軸と医療機関の必要性が縦軸のマトリックスで考えている。
- ・ 8050 では遅く、6535 問題と考えている。6535 の段階でキャッチできる仕組み・場所が必要。30 代なら就労の可能性は高いので、就労の可能性が狭まる前にどんな仕事に向いているか提案できるとよい。
- ・ 働きたい（本人）・働いてもらいたい（家族）という意見が多い。「就労支援」をひとつの方向性として進めてはどうか。
- ・ 2 年間、職場体験などの支援の結果、週 3 日工場で勤務できるようになった事例もある。
- ・ ひきこもりは、社会的孤立の問題のため、複合的な課題があり、複数の機関で支援する必要があるが、制度の狭間におられる方もある。また支援者個人の専門性を高めて、それぞれがプラスアルファの取り組みを行う必要がある。
- ・ マンパワーは限りがある資源であり、ネットワーク化が重要。またどこがリーダーシップをとるか連携と分担も考える必要がある。
- ・ ひきこもりは社会的孤立の問題であり、本人も社会につながりたいので、市としても手を差し伸べていきたいとのメッセージを強く打ち出してほしいと思う。
- ・ 本人も不本意な状態が続いている。相談をしてもあちこちにつながれているうちに、相談者の相談に対するモチベーションが下がる。そのため支援をプラットフォーム化・ワンストップ化し明示することが必要。
- ・ キーワードは社会的孤立で、社会的排除をなくし社会的包摂へ変えるべきである。
- ・ ひきこもりといわれる人は人間関係の構築に不安が強い。個別カウンセリングやグループ療法などができる体制が必要。
- ・ ひきこもり支援においては、こどもの年代からの早期の関わり、支援機関の連携体制、中長期的な粘り強い支援が重要。ひきこもり状態にある人には、発達障害も多く、子どもの頃から本人の特性に合わせた支援をしておくことで社会参加が可能になる。